

UNITE FOR GOOD

よいことのために手を取り合おう

2025～26年度年度
国際ローター会長 Francesco Arezzo



東京麹町ロータリークラブ

本日の例会プログラム

第 32 回例会 2026.6.1 (#2482) 舞の間
例会ホスト・紹介係 林野会員
受付係 中村会員 園田会員
司会者 乳井会員 ソングリーダー 保科会員

卓話 会員を知ろう ④

林野 秀徹会員・中村 和典会員
濱田 広道会員・新保 雅敏会員

前回の報告

第 31 回例会 2026.5.25 (#2481) 麗の間
例会ホスト・紹介係 園田会員
受付係 保科会員
司会者 乳井会員 ソングリーダー 鄭会員

卓話 「日本のエネルギー問題

～原発・自然エネルギー・石油危機～」

さくら法律事務所長 河合 弘之会員

会長報告

- 1) 本日は、弁護士の河合会員にエネルギー問題についてお話して頂きます。
- 2) 来月、22日の最終例会にはみなさまお集りください。このホテルのタワー館40Fのイタリアンレストラン「ベラヴィスタ」での開催です。

幹事報告

- 1) 今期、来期の各委員長は今夕のクラブ協議会にご出席下さい。維新號で18:00からの開催です。時間厳守でお集まりください。
- 2) 最終例会のご案内と次年度上半期の会費請求を配布いたしました。宜しく願いいたします。

例会記録

会員総数 60名 出席会員数 20名
ゲスト 0名 ビジター 0名
その他 0名 海外ビジター 0名
事務局 3名

ニコニコボックス

植芝充央会員: 5月23日(土)第63回
全日本合気道演武大会を無事執り行う
ことができました。
ありがとうございました。
齊藤会員: 演武大会に出席してまいりました。
木寅会員: 先日、合気道全国演武大会に初め
て参加させていただきました。貴重な経
験をたのしませていただきました。
久保田会員: 色々お世話になっております。

次回予告

第33回例会 2026、6、8 (#2483)
会場: 悠の間
例会ホスト・紹介係 吉沢会員
受付係 保科会員 須藤会員
司会者 末竹会員
ソングリーダー 鄭会員

卓話 「私の職業奉仕と中東情勢」

千代田グループガバナー補佐
垣見 裕司氏
(東京紀尾井町RC)

会員名簿を更新いたします。
名簿は1年おきに作成しております。
皆様の名簿のデータに変更やご希望がござい
ましたら、6月10日までにお知らせください。

戦国大名の事業承継～後継者の選定・育成について

歴史家・作家 加来 耕三氏 (5/18 卓話 保科会員紹介)



皆さんが思い描く戦国武将の姿は、恐らく実像とほとんど異なります。なぜなら、小説やドラマで描かれた世界が歴史だと、勘違いしているからです。ドラマや小説のように、逆算で描かれた世界を歴史と勘違いされますと、歴史に学ぶことはできません。

まずは地に足を着けて物事を見なければ、多くの真実を見落としてしまいます。

約 300 年にわたって国家を支配してきた中世の藤原氏や近世の徳川氏に共通するのは、2 代目が優秀であったことです。藤原氏は初代が鎌足で、2 代が日本の律令制を整えた不比等ですから当然でしょう。しかし徳川氏の場合、2 代の秀忠は関ヶ原の戦いへの参戦が遅れたではないかという人がいます。家康が開戦を決断したのは前日であり、遠く離れた秀忠は間に合うはずがありません。にもかかわらず、小説の世界では秀忠をばか者扱いするわけです。

秀忠は私が見る限り、日本史上最強の 2 代目だと思います。事業承継を歴史から学ぶとすれば、家康と秀忠が一番です。家康はまず、江戸の行政を任せました。任せた限り口出しをしません。しかし、対豊臣問題は最後まで任せませんでした。秀吉の忘れ形見である秀頼を殺せば、悪名が残ってしまうからです。実際、家康は豊臣家を滅ぼした後に亡くなっています。

秀忠が将軍だったとき、家康は大御所として静岡にいましたが、家康を立て、自分は黒子に徹し、自らの家臣を徹底して抑え込みました。こんなことは、なかなかできません。秀忠のことを見誤ると、事業承継が見えなくなります。

歴史学には「未発の発芽」といって、出だしを見れば終わりが分かるという考え方があります。そこを理解しないと、一番基本的な問題を見落としてしまいます。NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟！」では、藤吉郎秀吉が百姓しかしたことのない弟の小一郎秀長を、どのようにして家来にしたのか、が語られることはありませんでした。そこが分かれば、その後の豊臣政権の本質が分かるはずだったのですが。

私は経営学でいうブルーオーシャンを、秀吉は説いたのではないかと考えます。戦場で敵の首を取って出世する、レッドオーシャンではありません。

秀吉自身、戦場での槍働きがなくても出世できたのは、調略で敵を寝返らせてきたからです。弟に対しても、「おまえに槍働きは期待していない。織田家では人を殺さなくても出世できるのだ」ということを、一生懸命説いたのではないのでしょうか。

秀吉のブルーオーシャンを見ていくと、豊臣氏が本能寺の変から数年で政権を取れた理由が分かります。

それは、戦わないで勝つ方法を編み出したからです。秀吉は土木建築技術を駆使して城を城で囲み、兵糧攻めや水攻めを行いました。戦わなかったからこそ、豊臣政権は短期間に成功を収められたのだと思います。

歴史学は決して難しい学問ではありません。地に足を着けて立ち止まり、昨日とは違う今日に気付くことで、歴史学の門をくぐることができます。しかし、日本の経営者の皆さんは、数字は大事にされるのですが、歴史に学ぶという概念が欠けているように思います。

家康についても同じで、家康が泰平の世を開いた歴史を知ることで、幕藩体制の終わりが分かります。家康は泰平の世を開くために乱世を終わらせようと考えましたが、残念なことに家康は泰平の世を知りません。まずそこに、齟齬がありました。家康の考えた泰平の世とは腹いっぱい米を食べられる世であり、そのために彼は米を経済の中心に据えました。

ところが皮肉なことに、彼の構想を超えて泰平の世はさらに開けていきます。街道が整備され、海運が開かれ、結果的に銭の経済が米の経済を上回り、財政が破綻していきます。これから入るであろう年貢を当てにした経済が破綻することで、明治維新に至るのです。ペリーが来たから、明治維新になったのはありません。ですから、明治維新の原因をつくったのは家康だといえます。

このように、出だしを見ることによって終わりが分かります。多くの企業ではそれぞれ、内部に宝物をお持ちのようですが、歴史に学ばなければ宝物は発掘できません。また、非常事態になって財政破綻が迫っても、救うことのできる人間はかならず組織の中にいるのです。問題は、それを使える上の人間が存在しないことです。その点を考えると、歴史に学ぶべき点が幾つか見えてくると思います。